



水田に古代ロマンが花開く

6月16日、古代蓮の里東側の水田で、田んぼアート米づくり体験事業(田植え作業)が行われ、市内外から約600人が参加しました。

今年は、2.8ヘクタールの水田に、「彩のかがやき」など7品種5色の苗で描かれる「古代蓮の精」がテーマ。「田んぼアートの面積が世界一」として、ギネス世界記録に認定されることを目指します。また、スペシャルゲストとして、ミス・ユニバースジャパン埼玉代表の筒井菜月さんも田植え作業に参加し、イベントに花を浴びました。

参加者は、田んぼのぬかるみに足を取られながらも、一つ一つ丁寧に苗を植えていました。



緑のカーテンで夏も快適

5月19日、産業文化会館南側芝生広場で、ゴーヤの苗400本が配布されました。

この催しは、地球温暖化対策の一環として、市民の皆さんに「緑のカーテン」を設置してもらうために行ったものです。

夏になると青々とした葉を茂らせ、暑い日差しを遮ってくれることで快適な生活を送ることができるとともに、省エネ効果もあるといわれている緑のカーテン。苗を受け取った方は、「エコで環境にやさしい生活を始めてみよう」という意識をさらに高めることができたようです。



暑い夏を健康に乗り切るために

6月1日、「みらい」文化ホールで、健康づくり講演会「夏のけんこう気象セミナー」が開催されました。

第1部では、竹下浩一さん(大塚製薬株式会社)による「効果的な水分補給」についての講演、第2部では、気象予報士の井田寛子さんによる「天気予報から分かる健康情報」について、実験を交えた講演が行われました。

会場を訪れた方は、健康に夏を乗り切るための熱中症対策に正しい知識を身に付けようと、熱心に耳を傾けていました。



「住まいる行田プロジェクト」がスタート

5月31日、市役所で「住まいる行田プロジェクト」発足式が行われました。

このプロジェクトは、定住人口の増加を図るため、市内に定住する子育て世帯の住宅取得を奨励しようと、市からの奨励金の交付とともに、市内の協力建築事業者などが独自に特典サービスを提供することで、官民協働により定住化を促進する取り組みです。

この日は、プロジェクトの参加メンバーが一堂に会し、「定住促進宣言」を力強く唱和しました。業種を超えて同じ目標に向かって挑むこのプロジェクト。さらに大きな輪となって、まちの活力創出と地域経済の活性化につながることを期待されます。



熱中症予防とその対処方法を学ぶ

6月7日、太田東小学校で大塚アカデミー公開講座「暑さに負けないからだづくり」と題した熱中症予防についての講話が行われました。

この講座は、本市と大塚製薬株式会社との間で締結した「健康づくりにおける相互応援協定」に基づき、学校生活における熱中症対策の普及を図ろうとするもの。講師を務めた竹下浩一さん（大塚製薬株式会社）は、熱中症が起こる原因や症状、さらにはその対処方法を分かりやすく解説しました。参加した児童とその保護者は真剣な表情で話を聞き、熱中症予防のためには水と塩分の適度な補給で体内の水分バランスを整えることや、日ごろの体調管理が大切であることを学びました。



地域の連携を強めて

6月6日、埼玉小・中学校合同の避難訓練が行われました。

行田警察署の指導のもと、不審者に声を掛けられたときの対処法など、実演を通して熱心に学んだ児童・生徒たち。その後、地域の方に見守られながら、児童たちは頼もしい中学生のお兄さん・お姉さんに連れられて、一斉に下校しました。この取り組みを通して、児童・生徒たちをはじめ、学校や保護者の方など、地域の連携をさらに強くすることができました。



行田の歴史や文化を歩いて学ぶ

5月25日、行田ロータリークラブ主催（古沢勇治会長）の行田ふれあいウォーキング「古代ロマンと歴史絵巻ウォーク」が行われ、約300人の方が参加しました。

水城公園を出発し、埼玉古墳群、古代蓮の里、成就院、忍城址など市内の名所や史跡を歩いて訪れました。参加者は、行田の歴史や文化を歩いて学ぶだけでなく、緑豊かな行田の自然を満喫していました。

